

令和5年度 江戸川区立南葛西第二小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	・よく考える子 ・思いやりのある子 ・ねばり強い子 ・じょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「学力保障」で信頼される学校創り ・「文武両道」質の高い「知・徳・体」の実現 ・「学力保障」の責任を果たし、結果を出す
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 全国学力調査質問紙から学習意欲に対する質問において、おおむね7割から8割の意欲的である回答が多かった。 <課題> 本校の学力向上の目標は「東京都の平均に達する」である。ここ数年、都の平均下付近の傾向である。B層の割合は比較的高いが、D層からC層にかける割合が高いことがわかった。		

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進 ・補充学習の改善・充実 ・家庭学習の推進	①校内研究会の実施 ・国語科を通して「読む力」を高める研修会を開催する。 ・学力調査に対応した示範授業を講師招聘で実施する。 ②「標準学力調査」の実施 ・4月に実施し、その数値結果をもとに補充学習を効率的に進められるように改善する。 ③3回の家庭学習キャンペーンに、ICTを導入・活用する。	①年間計7回の実施 ・校内研究会4回、示範授業3回行う。 ②サマースクールの実施 ・夏季休業中に10日の補充教室を実施する。 ・後期から「南二道場」を組織だった在り方に変更する。 ・12月末までに標準学力調査の再テストを行い、10P以上上げる。	A	A	①校内研究会;講師後援会1回(5月)、校内授業1回(6月) ・示範授業1回(1月予定)、その他、実施日等計画中。 ②夏季休業期間中のサマースクールを10日間実施。 ・南二道場を教科を算数に限定して実施。 ③タブレット「ライズカード」の活用状況において、「リルパーク」の使用(一人当たりのアクセス数)が、区内5位に入る。	A	○上半期の取り組みにより、学力が向上した実績報告をいただき、ありがとうございました。短期での学力向上に少し驚きました。 ○目標実施回数に沿って進捗しているように見受けられます。 ○サマースクールは目標通り実施されている。 ○家庭学習におけるICT活用・導入が行われている。	○日々の授業実践や研修を通し、教師の授業力向上を目指す。教師一人一人が毎時間の授業はほんのりのこと、補習や朝学習などの取組にも力を入れ、児童一人一人の基礎基本の定着を図る。また、学力の定着については、タブレットの活用を含め、今後も工夫して取り組む。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書に親しむ全校読書旬間の実施 読書科の授業による探究的な学習の充実や図書館活用の推進 ②毎週金曜日30分間の読書タイムの実施 ③図書ボランティア(保護者)による図書室整備や読み聞かせの実施 ④公共図書館司書との連携による図書室整備	①読書旬間の年3回(学期1回)実施 ②各学年、各学期1回のHPにおける実践報告 ③読書タイムの年35回以上実施 ④図書ボランティア活動及びタブレット活用による読み聞かせを月1回程度実施 ⑤公共図書館司書による図書室整備を週1回実施	A	A	①学期に1回読書巡回開催 ②各学年学期に1回掲載 ③読書タイム12回実施 ④図書ボランティアによる活動・図書館司書による図書室整備を毎週金曜日を中心に実施	A	○国語は、各種科目の学力向上のベースになると考えている。国語力UP=読解力UPのために読書は最適です。読書会の維持を望みます。 ○目標に沿って実施されている。 ○各学年の実践報告が行われている。 ○図書ボランティア、図書館司書による図書室整備が低定定で行われている。 ○自分の興味のある熟中できる書物に出会えることが大事だと思います。	○毎週金曜日の読書タイムは、多くの児童が落ち着いて読書に取り組んでいる。学校図書館の貸し出しが機械化されたことでさらにたくさんの本の貸し出しが増え、読書する習慣が身に付くことを期待する。 ○後期(10月10日以降)から火曜日の昼休みに読書の時間を設け、読書に親しむ時間を増やした。 ○図書ボランティア、図書館司書による図書室整備が低定定で行われている。 ○図書ボランティア、図書館司書と協力して、子供たちの読書環境を今後も整えていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲に向けた取組の実施・充実	①毎週金曜日30分間の運動遊びタイムの設定 ②異学年交流の中でのスポーツテストの実施 ③体育の授業および行間体育の充実	①運動遊びタイムの実施及び体育委員会による効果的運動遊びの実施を年35回以上実施 ②スポーツテスト実施前のポイントの理解及び練習、区・都平均越え ③なわとび・マラソン等の業間体育での取組及び長縄大会や南二ランピックの開催	B	B	①運動遊びタイムを1学期12回実施 ②実施前のポイントの理解及び練習を実施 結果が届き次第、分析する。 ③縄跳び・マラソンの実施は冬場となるため、今は準備を進めている。	C	○学校の活動に加え、各家庭の取組も重要かと思えます。 ○未実施のものは、中間報告として評価しない。 ○準備のものは、別の方法で取組んでほしい。	○コロナ禍での制限された条件の中で、体力の減少が本校でも見られる。今後は、外遊び、運動遊びタイム(30分)といった日常生活から子供が運動に親しみ、体力向上の基盤を確立していく。 ○12月の南二ランピック開催に向け、準備を進めている。それに伴い、運動遊びタイム(冬の期間)のはじめ10分をマラソンができる時間にする。 ○体育の学習では、各領域における運動の良さを生かし、運動に親しむ心を含め、体力の向上と健康をサポートしていく。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①校内委員会開催による巡回指導教室「ゆりのき」との連携 ②校内いじめ・不登校会議の開催 ③特別支援コーディネーターを中心とした副籍交流の実施 ④体育の授業における障害者理解教育の推進	①校内委員会の開催及び巡回指導との指導方針の共有を年5回以上開催 ②いじめ不登校会議の実施を月1回開催 ③特別支援コーディネーターを核とした副籍交流の計画及び実施 ④パラアスリートとの交流及び体験(ポッチャ)の実施	B	B	①定期的に校内委員会を開催し、現在3回を終了している。年内に残り2回を予定している。 ②毎月1回、月はじめに開催している。 ③10月に1回を実施した。 ④パラアスリート等の交流は現在検討中である。	B	○数値目標の達成=課題解決とはいかない課題ではありますが、できることはスピーディーにすべきと考えています。 ○校内委員会、いじめ不登校会議は、実施できていない。未実施のものは、評価できない。 ○いじめについて具体的な取組を数値目標に対して、自己評価にはいじめなどに反映されていないのは	○いじめは、どの学級にも起こりえる覚悟で、未然防止、早期発見、早期解決を実践していく。いじめを目標し、「いじめは絶対ダメ」を子供の中に確率していく。 ○不登校や登校しぶりに対する外部機関との連携を今後も実施する。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・Hypaer-QUの活用	①Hyper-QUの実施及び教員研修会の実施、個票を基にした面談の実施 ②「よいこのきまじ」を意識した生活指導 ③スクールカウンセラー(SC)による5年生児童全員面談 ④職員夕会における教職員の児童理解の促進	①Hyper-QUの1学期に実施し、結果が学校到着後に検討会を実施し、個票を基にした保護者への返却 ②「よいこのきまじ」について、生活指導週目標を設定し、実施 ③1学期中に5年生全員にSC面談 ④職員夕会の開催及び児童支援内容の情報共有を週1回開催	B	B	①Hyper-QUを1学期に実施し、結果を基に校内で研修を行い、10月に保護者への返却を行う。 ②各学級において生活指導を日々実施 ③SC面談終了、個別対応を実施中 ④週1回の共有を基に開催し、特別なことがあると臨時に開催	B	○学校生活において、我が子がどのような存在、ポジションであるかも、家庭で理解できるようにしなければならぬと感じています。 ○Hyper-QUの結果の分析が保護者への反映した活用に期待します。 ○別な方法での取組も期待する。	○Hyper-QUから得た情報から学級経営に反映し、居心地の良い学級を目指す。 ○不登校や登校しぶりに対する外部機関との連携を今後も実施する。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等	①各学年の日頃の様子をHPに掲載 ②給食メニューにおける図書活用「お話し給食」の実施	①各学年月3回以上、HPに学年の様子を掲載 ②年3回お話し給食の実施及びHPにおける実践報告	A	A	①各学年における月3回以上の更新を実施中 ②2学期に給食室改修中が予定されていたため、1学期中に2回開催、残り1回は3学期に予定	C	○数値目標に対しての進捗については評価できる。 ○各学年の様子の更新が欠かさずHP公開発信がされている。 ○給食室改修に伴い、前倒し実施など、工夫が見られる。 ○地域には見えてこない部分がある。当たり前の事を普通に取り組むのではなく、	○地域への情報発信における取組がまだご意見をいただいた。情報発信をすすめるうえで、保護者だけでなく、地域への理解を得た学校教育を整備していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校評議委員会の開催 ②学校評価の実施・公表	①学校評議員会を年3回開催 ②中間、最終における学校関係者評価のHP公表	A	A	①学期に1回を予定、1学期に1回(6月)開催 ②中間、最終のHP公表を計画中	C	○数値目標に対しての進捗については評価できる。 ○評価結果をきちんと公開している。 ○地域には見えてこない部分がある。当たり前の事を普通に取り組むのではなく、	○学校行事における保護者参観がコロナ前に戻り、学校行事における学校評議員の方の参観も増えるようになった。会議だけでなく、子供の様子を今後たくさん見ていただければと思う。
	地域の教育資源を生かした教育活動や異学年交流	①地域の特色を生かした体験活動 ②異学年交流(なかよしタイム)の開催	①葛西臨海公園への全校遠足(全学年)、生活町探検(1・2年生)、動物触れ合い体験(1年生)、なぎさポーランドの乗馬体験(2年生)、海音読き体験(3年生)、ささなみ会の皆さんと田植え・稲刈り体験(5年生)の実施 ②異学年交流(なかよしタイム)は、準備を含め年7回の実施	A	A	①全校遠足はインフルの流行のため中止、生活町探検10月に実施予定、動物触れ合い体験企画中、なぎさポーランド乗馬体験1学期開催、海音読き体験3学期実施予定、ささなみ会さんとの田植え・稲刈り(9月)終了 ②なかよしタイムはすでに3回(4月・5月・6月)実施	B	○未だに続く感染症の影響下、さまざまな活動を推進くださり、ありがとうございました。 ○地域の施設利用、地域の活動グループとの交流など、地域独自の特色を生かした活動がよい。 ○異学年も順調に行われている。	○9月にインフルエンザによる学級閉鎖があった。感染症の心配、不安がある中、健康に留意しながら学習活動を進めている。